



シンガーソングライター

伊藤 サチコ

年立派に育ち、そして収穫の日は誇らしげに食卓に現れ、私たちを感動させてくれるものでした。

高校に進む頃に私は音楽の道を志すようになり、在学中に初めてレコードデイリングしたカセットテープがありました。それを母はラジカセに入れ、いつもビニールハウスの中でくり返しくり返し苗に聴かせていました。そうです。

高校を卒業しCDデビューのきっかけを得て私は一人上京。その後もビニールハウスの苗たちは、再生します

音がのびになつていて私の歌を聴いてくれていました。そうして育つたお米が毎年一人離れて暮らす東京に送られてきます。

秋田のお米は格別です。東京でできた友人たちは家のお米を「サチコの歌を聴いて育つたサチコ米」と呼んで、絶賛してくれます(笑)。あまり

に実家の新米が美味しいすぎて、一度ライブ会場でおにぎりにしてお客様に振る舞つたこともあります。

未来のために…ささいなことではあります。農産物に農家の方が込められた愛情をしっかりと理解し、その味の素晴らしさを次世代に大真面目に伝えていくことも、今私ができる大切な仕事かなと思います。

J.A.グループの皆さんには、美味しい果物やお野菜、お米を誇りと愛情を持って私たち消費者に届けて頂き、感謝の想いでいっぱいです。これからもおいしいお米を食べて、毎日の音楽活動頑張ります!

親に恩返しできるようになりたい。それが私の夢です。

小さい頃に、母と一緒に「おいしくなれ。おいしくなれ。」と一緒に懸命唱えながら植えた心。あの時心がどれ程大切なことか。自然に教えてくれた母には本当に感謝しており、そして尊敬します。あの心を知ったおかげで、今も音楽を続けている気がします。心を込めると美味しいくなるものだから、音楽も農業も共通している部分があるかもしれません。

私を育てくれた、美味しいお米の秘密

小学校からの帰り道はまっすぐ伸びた小さな農道。その道端に私の家の田んぼがあり、家の軽トラックが遠くに見えたらいつも迷わず用水路を飛び越えて農作業をする母のところに駆け寄りました。

印象に残っているのは、田植え。機械が通れない田んぼの隅っこは、田植えを手伝えるので大好きな場所でした。母はいつも「おいしくなれ。おいしくなれ。」と声を出しながら苗を植えると本当に美味しいくなるよ!」と私に教えてくれたので、同じように声に出して植えました。

水田の泥の匂い、ヌルヌルと滑る足の感覚、指をすつと抜いた後にサラサラと風に揺れる美しい苗の緑色。お米は家族の一員のようにして毎



東北六魂祭2013の様子。母のお下がりの浴衣を着て、ふるさとへの想いを込め参加。

●いとう・さちこ
1981年5月21日生まれ。男鹿市出身。2001年7月に1stシングル『宿題』(発売元: ヤマハミュージックコミュニケーションズ)でデビュー。シンガーソングライターとして活動している傍ら、2012年1月には榎本聖貴(ex. LOST IN TIME)とともにユニット『huenica(フエニカ)』を結成。huenicaでは勢力的に全国ツアーも行っており、東北ライブハウス大作戦との共同企画やプロジェクトグンマ賛同イベント、氣仙沼の子どもたちとキャンプをし、一緒に楽曲制作するなど東北での活動も多い。東北六魂祭2013ではメンステージにて東北6県出身アーティストたちで集結したスペシャルバンド「TOHOKU ROCK'N BAND」に秋田代表で参加。

□伊藤サチコオフィシャルHP <http://ito-sachiko.com>

□huenicaオフィシャルHP <http://huenica.com>